



森のなかま

2024年 12月号

NO. 198 (継続343号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

【自然観察部会活動】 自然観察会

開催日：2024年9月21日(土) 9:30 ~ 15:00 曇り
場所：大雄山最乗寺と花咲く里山
参加者：大人31名
主催：かながわトラストみどり財団
講師：内野⑨、西岡⑭、久慈⑯

かながわトラストみどり財団主催の自然観察会です。参加者31名、かながわトラストみどり財団2名、神奈川県森林インストラクターの会3名、合計36名の観察会です。

今回のコースは歩行距離8km強と健脚向き設定でした。天候は薄曇りで強風。まだまだ暑さ残る中、多少は楽に過ごせる日和でした。大雄山駅前広場でオリエンテーションを行い、3グループに分かれて、元気に出発しました。

最初のポイントは南足柄神社です。後で関係する最乗寺の三面大黒尊天にお参りするのを楽しみに、境内のイチイガシ、シラカシの巨木や“どんぐりのこども”を観察しました。

仁王門に到着し、開花間近のクサギを観察後は、天狗のこみちに入ります。こみちは樹齢300年超かと思われる苔むす杉の巨木林はもちろん、サワラ、モミ、アジサイ、シャクナゲ、シャガ、ミヨウガ、ヤブミヨウガ、ミズヒキ、ホウチャクソウ、カラムシ、ホシダ、リョウメンシダとびっしりと緑に覆われています。

たっぷりフィトンチッドを浴びた後、いよいよ三門をくぐり、最乗寺中心部へ進みます。座禅石、本殿、洗心の滝、結界門、三面殿、高下駄、御真殿、慧春尼堂などをめぐり、パワーを頂きました。参加者の方からは、「これでまた長生きしてしまおう！嬉しいような困ったような…」というお声もありました。



こちらのハイライトはイロハモミジに着生したセッコクです。通常であれば晩春から初夏にかけて咲く花が、今、みごとに咲いています。それ以外では、シュウカイドウ、キバナアキギリ、ヤマハギ、ヒヨドリバナ、ヒガンバナなどを観察することができました。



最後に向かうのは花咲く里山です。ヒメシャラ、エンジェルランペット、キツネノマゴ、オニタビラコ、チヂミザサ、ヨウシュヤマゴボウ、ザルギクなどを観察しながら、むしろ、里山の大切さと守る大変さを考える時間となりました。



最後、参加者の皆様からは、「撮りたかった花の写真が撮れた」「歩くのはもともと好きだが、インストラクターがいて、またみんなの経験とか聞かせてもらって、すごく楽しい一日になった」などの感想を頂き、仁王門で解散しました。仁王門からバスを利用した方と大雄山駅まで歩かれた方がおられました。



写真右上から：ヤマホトトギス、セッコク、結界門と天狗像、高下駄と御真殿
左上から：花咲く里山へ森の中を抜ける、里山の風景、ヒガンバナとモンキアゲハ

(記 久慈 真理⑯、写真 内野 ミドリ⑨)

シリーズ 『やま』の色々

第4回 生物多様性について考えてみます⑤

「自然」の理解を考えます

公益社団法人 大日本山林会参与 桜井尚武 氏

生物多様性を理解するために、生物多様性を語る場合の2つの大きな違いを理解しておく必要があると思います。その1つは現代人の関与しないか少ない場における生物多様性、2つ目は現代の社会システムや人々の生活の中に共存している生物多様性、この2つを混同しないようにしたいということです。

前者は原生自然と想定した自然における生物多様性（図1、図2）、後者はこれまで記述してきたサンフランシスコにみた自然、国連や環境省がその政策に取り込み世界に発信している生物多様性条約などで現在私たちが大事だから確保し保全するべきものと提案されている自然・環境における生物多様性というものです。



図1 奄美大島の山林_1990年代初頭、常緑広葉樹林で様々な樹種が混成している



図2 尾瀬燧岳_19931022_山麓のブナ林、中腹の針葉樹林、頂上周辺のハイマツ林の高度別分布が明瞭

とりわけ後者は伐採されたり植栽されたりした人為的影響を受けた自然・環境の生物多様性のことで（図3、図4、図5）、これを混同すると話が混乱する場合があります。私たちボランティアが活動対象とする保全するもの、よりよくするものとしての自然・環境は、後者の人間と共存する自然・環境と考えています。



図3 暖帯林の林相、かつては薪炭採取林だった、様々な樹種が混成している_20130428_宇久須西伊豆



図4 雑木林と言われる二次林の林相
_20190407_馬頭刈山東京あきる野市



図5 背後に雑木林を、前面に茶畑や野菜畑などを配置した山村の風景_1990年代初頭_黒羽町栃木県

さて、現在81億1,900万余の人口が地球上にいます（世界人口白書2024）。地球が養える人間の数の限界について様々な議論と共に研究が進められています。多分わかることはないでしょうけれど限界に近付いているという認識は世界共通のものと思います。

なぜヒト(*Homo sapiens*)だけがこれだけ増殖でき、世界各地に拡散して生活できるのか、そもそもこれまで知らなかった地域にもほぼ自由に往来出来て初めて会う人々とも安全に交流できるのかについての様々考察があり研究が進んでいますが、確たる答えは未だにありません。

ヒトも生物であり自然界の仕組みに従わないでは生きられない存在だから、自然の仕組みを壊すと人間生存の基盤も損なわれるので自然環境がそうならないように保全しなければならぬし、自然の仕組みは生物多様性で維持されているから生物多様性を大事にしなければいけない、というようなことが言われています。

でも、この文言をよく読んでみても何を言っているのか解りませんし、私たちの社会はこれまでも今でもこれからも「自然破壊」を続けていくのですから意味のない言葉と思えます。そもそも私達が何をしなければいけないのか、何をすればいいのかサッパリわかりません。

桜井先生のご執筆内容にご感想やご質問がありましたら
先生のアドレス

hayachines@yahoo.co.jp にお送りください！

活動短信

今回の掲載はR6年9月10日からR6年10月12日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

12月(師走)(旧暦11月霜月)の
二十四節気 / 七十二候、鳥こよみ

大雪 12/7 冬至 12/21 /熊蟄穴(熊穴にこもる) 12/11
熊が冬ごもりする頃。この冬も暖冬とエサ不足で冬ごもりしない(できない)熊が多くなりそうで心配です。

鳥こよみ: 少し前から「ヒッヒッ」とジョウビタキの囀りが聞こえるようになりました。鮮やかな雄も可愛い雌もそれぞれが縄張りを主張します。鳥見人の間では雄は「ジョビ夫」、雌は「ジョビ子」が通称になっているようです。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です(200字程度で、Word、メール直筆は可、Excelは不可)。**写真はなくても構いません**(紙面の都合上最大で3枚とします)。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も
場 場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財 (公財)かながわトラスみどり財団、**看** 看護師
ス 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠
以下、**本文を400字前後を目安**として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名、写真撮影者名=フルネーム+期)もお忘れなく!!
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m()m

◆ 「明治安田×Jリーグの森 ~未来をつむぐ森~」
森林体験研修

日 令和6年9月10日(火) 10:30~15:30 晴れ
場 県立21世紀の森
参 明治安田生命及びJリーグ機構参加者51名
及びスタッフ13名 合計64名
県 水源環境保全課 山田副技幹
イ L上宮田⑩、齋藤⑧、高橋⑨、西岡⑭、牧石⑭、
岡村⑯、小国⑰

イベントは明治安田生命新入社員体験研修とJリーグ機構の職員が合同で開催され、午前中は成長の森の下草刈りを行うグループと竹林整備を行うグループに分かれ、造林作業の体験を行っていただきました。午後からは森林館及び周辺の自然観察と21世紀の森職員の指導によるマイ箸作りを体験するなど、作業の厳しさと森の楽しみの両方体験していただく計画でお待ちしました。

バスは予定時間より早く到着し、写真撮影等の時間を

とつてもほぼスケジュール通りの工程で進めることは出来ましたが、午前中の予定時間が1時間弱であり、下草刈り班の一部は作業場所の下草が密



生して作業展開できない状況で、作業域を確保することから始めたため実際の作業時間が少なくなってしまいました。竹林整備も現地までの往復時間がかかり、数本の整備になったようだが、当日は猛暑日に近い気温であり、作業の過酷さは実感してもらえたと思います。

午後からは自然観察とマイ箸作りを体験してもらいましたが、午前とは違い和気あいあいに色々なことを楽しんでいただけたと思います。無患子(ムクロジ)のシャボン実験は特に歓声が上がリ、色々な森の効用や必要性も感じ取ってもらえたと思います。

開会式にはオニヤンマの歓迎巡回や大型のショウリョ

ウバツタ訪問に歓声(悲鳴)もあり、どうなることかと心配もしましたが、帰りの時は皆さん笑顔が多かったので楽しんで貰えたのではないかと思います。



(記 高橋 修⑨、写真 上宮田 幸恵⑩)

◆ 県民参加の森づくり「ササ伐採」

日 令和6年9月11日(日) 8:30~15:00 晴れ
場 箱根仙石原(箱根小塚山緑地)ポーラ美術館
参 52名
財 豊丸様 藤本様 **看** 佃様
ス 小田原市森林組合様
イ L小林⑯、柏倉④、滝澤⑤、齋藤⑧、野牛⑧、内野⑨、
東⑫、大原⑬、古舘⑬、牧石⑭、黒川⑭、西岡⑭、
石垣⑮、相澤⑮、久次米⑯

好天の中、ポーラ美術館駐車場に到着後オリエンテーション場所へ移動し、今日の活動目的・注意事項等、財団とリーダーより伝えられた後、各班準備をして現地へ向かった。

ポーラ美術館散策路に流れるヒーリングミュージックや小川のせせらぎの応援を受け全身汗だらけになりながらの作業でした。倒木(数本)あった班(5班)はササ除

伐に支障があるため、大きく広げられた枝を切り払いしました。身体を動かすと汗がドーッと吹きでます。湿度が高く疲労度も高いため各班は多めに休憩をとりました。(グループで集まり参加者のお話を聞きあい休息を長めに取る工夫も見られました。) 体調を崩された方はありませんでした。左手親指に怪



我をされた方が1名、看護師の手当てを受ける(軽傷)。作業終了後、見通しの良い雑木林の木洩れ日がとても綺麗でヒメシヤラの木肌への照り返しが印象的でした。作業

道具を片付けオリエンテーション場所に出ると財団よりカートンカン(レモネード味)ポーラ美術館の方からは冷えた飲料(スポーツドリンク、お茶等)が提供され喉を潤しました。

初参加の方はお一人おひとり参加動機が異なりますが、全身を使い汗を流した後の爽快感を味わっておられた様です。ポーラ美術館様にはマイクロバス駐車、移動時の安全確認、誘導、トイレの使用等ご協力を頂きました。

振返り後、箱根高原ホテルへ移動、昼食、希望者は温泉入浴し、その後マイクロバスで帰路につきました。



箱根高原ホテル様、ポーラ美術館様、ご協力ありがとうございました。

(記 久次米 久実子⑩、写真 牧石 稔⑭)

◆ 「J&T環境株式会社」様 社員のボランティア活動

日 令和6年9月14日(土) 10:00~14:30 晴れ

場 県立21世紀の森

参 J&T環境株式会社 社員 合計20名

県 水源環境保全課 星様、野口様

イ L 牧石⑭、高橋⑨、松本⑪、森本⑰

今回は社員を対象とした「ボランティア活動」で午前中はマダケ展示林の整備作業、午後は森林館周辺の自然観察を企画し、森の整備体験と森の楽しみ方等を感じていただければと思います。到着をお待ちして



高速道路が渋滞しており、計画より20分程度遅れて到着されたため、午前中のマダケ整備の時間が1時間も取れなくなりましたが、当日は猛暑日に近い気温と湿度で移動や作業に汗が流れるような状況であり、短い作業時間でも造林作業の厳しさを実感してもらえたと思います。



皆さん大変真面目に作業に取り組みされており、短い時間であっても仕上がり良く作業が出来ました。昼休憩を挟み午後からは森林館や周辺の自然観察を行いました。

森林館では水源の成り立ち、林業の作業と目的等のお話や、展示物の見学。周辺の観察ではムクロジやクスノキの利用と効用、カツラやクロモジの香りを感じてもらいました。

自然観察でも皆さん大変熱心であり、色々な話をしながら廻ることができ、森の楽しみ方も少しは体験できたのではないかと感じました。

また時間を作っていただき森へ遊びに来ていただきたいと思いました。



(記 高橋 修⑨、写真 牧石 稔⑭)

◆ 横浜市立上川井小学校 間伐体験

日 令和6年9月18日(水) 9:40~11:30 快晴

場 相模原市緑区 長竹継承分収林

参 46名(大人7名、4・5年生児童39名)

財 古舘様

イ L 石垣⑮、松本⑪、牧石⑭、田島⑰、藤田⑰



ームが A、B の 2 班に分かれて移動しました。

A 班(21 名)は代表 5 名が実際に鋸を使い、他の児童はそれを見学しました。ゆっくりとスローモーションのように倒れていく木に、生徒だけでなく先生方からも歓声が上がりました。B 班(18 名)はかかり木になり、ロープを引く作業に見学児童からも参加者が続出。皆で声と動作を揃えてようやく倒れた時には「やった！」の聲が上がりました。

先生の許可を得て、30 分延長とし枝払い班と林内整備班に分かれて切り戻し等々日常ではしない作業に専念しました。

「丸太を持ち帰りたい」と願う生徒に先生が「教室には置けないから無理です」と説得する場面もあり、児童にとって普段出来ない新鮮な体験であったと感じた活動でした。(記・写真 石垣 桃栄⑮)



9 月半ばを過ぎてなお 36 度の猛暑日活動となりました。交通渋滞のため 30 分遅れの到着で、皆助け合いながら装備を整え現場到着時には汗だくとなりました。あらかじめインストラクター 2 名が木(2 本)にロープをかけた伐倒の準備を整えて待つ場所に、4 年～5 年生混合チ

◆ 第 9 回 県民参加の森林づくり 間伐

日 令和 6 年 9 月 23 日(日) 8:30～14:30

小田原駅曇り(現地雨)

場 箱根町畑宿

参 58 名(参加予定者:109 名_予備日に順延で参加者減)

財 藤本様、古舘様 看 増田様

ス 小田原市森林組合様(用具準備)

イ L 真貝⑪、滝澤⑤、齋藤彰⑧、上田啓⑩、山口⑪、石川⑫、斉藤夏⑬、牧石⑭、西村⑮、森⑮、久慈⑯、堀口⑯、小国⑰、杉山⑰、三浦⑰、森本⑰

9/22 が雨模様の為、9/23 に順延となった。9/23 は開催されたが、順延の為約半数が不参加になった。参加者 58 名/応募者 109 名。インストラクターは 16 名の 5 編編成。曇り模様の中、快晴となる予報の中 8:40 小田原を出発。

ところが途中から小雨が降りだし、9:40 頃現地到着時は雨降りの状態。トイレ休憩を済まし、15 分バス中で待機するも雨は上がりません。場所を変え、いつものバス待機場まで移動し、さらに、雨上がりを待った。その間にバスの中で 3 号車のインストラクターから間伐の説明をしようとの提案があり、待機中に間伐のレクチャーを全号車に展開した。10:30 トラストみどり財団から「間伐取りやめます。」との判断が出て、参加者の希望により、1 台 14 名は小田原に帰還。あとの参加者は昼からの温泉入浴の為、箱根高原ホテルに向かった。

バスの運転手さんに伺うと、「箱根では雨雲レーダーに写らなくてもこのくらいの雨の時は有りますよ」との情報。箱根高原ホテルに向かう途中、芦ノ湖まで下った時には雨は小雨程度で、道路も濡れておらず、晴れ間も出ている状態だった。間伐現地の雨は高度差によるものだった様だ。



ホテルのご厚意で 11:30 からゆっくりと入浴して、13:15 帰路小田原に向かい駅で解散となった。間伐はできなかったが、初心者も多く参加した今回の活動で、インストラクターのレクチャーが有り間伐のいろはを知ってもらい、温泉入浴もでき今回の活動が終わった。

(記・写真 真貝 勝⑪)

◆ 回胴式遊技機商業協同組合様 林内整理(下刈り)

日 令和 6 年 9 月 21 日(土) 11:00～12:40 曇り

場 やどりき水源林

参 67 名

イ L 森本⑤、佐藤⑤、安部⑤、村井⑨

県 村松 GL 様

財 倉野 様

パチンコ・パチスロの組合で、環境保全の一環としての社会貢献活動を展開。

作業内容は林内整理(下刈り)で無事に終了。恒例の緑の募金に関して、この場を借りて深謝を申しあげたい。

先様は このあと寄自然休養村での BBQ が予定されていて、水源林の森林活動と地元での BBQ の組み合わせはいいな、と思いました。

(記 森本 正信⑤)

◆ 横浜市立下田小学校の竹細工教室

日 令和 6 年 9 月 27 日(金) 13:30～15:00

場 横浜市立下田小学校

参 29 名

イ L 野牛⑧、小野⑦、竹内⑮

下田小学校の4年1組は、今年の総合学習で「竹で何か作ろう」をテーマにして、工作に取り組んできました。ずいぶんザックリとしたテーマですが、まず話し合って作るものから決めていこうとしたようです。最近の4年生の学習はなかなか野心的な試みをするんだなあ、と感心しました。

自分たちの作品を使って、友人たちを「おもてなし」をするために、竹を使って何か作ろうときめ、地元の竹林から材料の竹を伐りだしました。四つにグループに分かれてたぐいまれ製作中の状態です。シーソー、ベンチ、流しそうめん、シロフォン（竹で作った木琴）を目指していますが、道はまだ遠いというところです。

でも先生は焦っていません。いろいろ工夫を凝らす過程が大事なのだそうです。すぐに焦って結果をごまかし創ってしまう自分を反省しました（笑）。

午後の授業二時限分を使って教室内で作業です。まず、竹挽き鋸の特徴を説明。その後約二時間、子どもたちの質問に答えながら、鋸の引き方、ひもの結び方などを教えます。しばらくすると鋸の使い方が上達し、シュロロープの結び方をマスターした子もいて、嬉しい結果でした。これから頑張ります、という子どもたちの前向きな発言が何よりでした。

本当は竹を伐り出すところから一緒にやって、何回かお付き合いすると成果がまとまるのですけどね。ちよっぴり後ろ髪が引かれる思いを残して学校を辞しました。

（記 竹内 明彦^⑮）

◆ アコム株式会社様 森林保全活動 アコムの森（神奈川）

日 令和6年10月12日（土）10:00～15:00 快晴

場 21世紀の森

参 11名

県 県水源環境保全課 藤原主査、黒田主事

イ L 森本^⑰、西出^⑱、田島^⑲

アコム（株）様は毎月活動为目标に活動推進されていますが、残念ながら

夏の天候に恵まれず、3ヶ月振りの活動となりました。今回は11名の少数精鋭で21世紀の森で竹林整備を行いました。皆さん、慣れた手つきで黙々と作業を実施され、作業後の集積もキレイで、景観も意識したとても丁寧な保全活動でした。目標としていたハリギリの木周辺の竹伐採ができ、堂々としたハリギリが姿をあらわにした景観を見て、参加者の皆さんは活動の達成感を感じていました。



今回、秋の活動なので季節を感じていただこうと、午後の活動前にミニ観察会を急遽開催。ガマズミ、クスノキ、ムクロジの3種類の樹木を紹介しました。ガマズミはまだ熟しきらない実ですが少し口に含み味を感じ、クスノキの葉は香りを嗅いで防虫剤の樟脳の匂いを感じ、ムクロジは果皮を水に入れて泡立つ様子（昔は洗剤として利用）を見て、その度に「おー」と声を上げて関心を示し、五感を使った観察を楽しんでいました。

アコム（株）様の若手参加者は、「アコムの森」タオルを自前で作成するほど、活動への関心が高く、社内に広く保全活動の大切さが浸透していると感じました。



（記・写真 森本 利弘^⑰）



人も自然も
いきいき 丹沢

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生
委員会の ホームページをご覧ください。
<http://www.tanzawasaisei.jp/>

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

「森の案内人」森の案内人は12月～2月はお休み。3月から再開します。

「やどりき水源林ニュース」

11月号は「彩り美しい「やどりき水源林」へでかけよう!! 紅葉はこれからが見頃です」です!



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当: 森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子
muneko-sakura@outlook.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫
skasai0618@gmail.com
黒川 敏史
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小国 一男
ka-oguni@ab.auone-net.jp
河西 静夫
skasai0618@gmail.com

◇ 編集後記 ◇

★最近、増えてきて気になる外来種を挙げてみました。皆さんも観察してください。セイバンモロコシ—葉の形がトウモロコシの細いバージョン。但し毒成分があるので動物は食べないそうです。ススキと間違える。炭俵が作れそう。メリケンカルカヤ—すべ縄は作れそう。結構丈夫。「すべなわ」稲わらで作った縄。”荒縄”。粗い櫛のような道具で稲わらの”すべ”を取り除くが「すべなわ」という。



左から、ススキ、セイバンモロコシ、メリケンカルカヤ (松本)

★「テセウスの船」の話がある。ローマ帝国時代の著述家プルタルコスが提唱した問題で、テセウスの船という伝説の船が大切に保管されていた。そこで、少しずつ新しい部品に交換していった。こうしていくうちに全て新しい部品に置き換わってしまったという。すべて新しい部品に置き換わったこの船は「テセウスの船」だろうか。木や人はどうだろうか。生きている木も、そのほとんどが死んだ細胞からできている。木の生きた細胞は外側へ細胞分裂を続けながら、幹を太らせている。内側に位置した細胞は死んでいくのである。木は生きながら死んでいる。死んだ細胞によって体が作られている、とえば人間の体も同じである。木と反対に人は死んだ細胞が生きた細胞を包んでいる点では、全く違いがない。新しい細胞に置き換えられた私の体は、以前の私と言えるだろうか、以前の私とは別の存在なのだろうか? 木に死はあるのか。(小林)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわすくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。
かながわの水環境の
保全・再生をめざして
https://twitter.com/kanagawa_sizuku



やどりき水源林問合せ: (公財)かながわトラストみどり財団
TEL: 045-412-2255 / FAX: 045-412-2300
<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会
<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替をとお申し込み下さい。
郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 河西 静夫
広報部: 黒川 敏史、松本 保、
笠原 かずみ、長尾 晴子、
小林 照夫、小国 一男、
小池 宗子
支援: 大原 正志、吉田 郁夫

2024年度 森林探訪

主催：認定 NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会

自然に親しみながら、森林を中心とした自然に対する理解を深めていただく、
森林インストラクターが案内する自然観察会です。

第2回 日向薬師から日向山・七沢温泉へ

終了

共催：丹沢大山自然再生委員会



行基が開山したという日向薬師と、周囲の寺林から
続く木もれ日の中の道を歩きます。

開催日：2024年11月30日(土)

申込締切：11月22日

集合：小田急伊勢原駅改札前 8:30 集合

解散：七沢温泉入口バス停 15:30 頃

コース：伊勢原駅北口バス停→日向薬師バス停(林)→日向薬師(林)→日向山山頂→亀石
→七沢温泉→七沢温泉入口バス停(林)(解散) バスで本厚木駅へ 高低差：330m

第3回 冬の多摩丘陵 黒川谷ツ公園・よこやまの道を歩く



多摩丘陵に広がる雑木林、湿地、里山を巡り、防人の
時代に思いをはせるコースです。

陽だまりで一足早い春を探してみましよう。

開催日：2025年1月26日(日)

申込締切：1月18日

集合：小田急多摩線はるひ野駅北口 10:00

解散：黒川駅 15:00 頃

コース：はるひ野駅(林)→黒川谷ツ公園→はるひ野駅(林)→よこやまの道→黒川駅(林)
高低差：100m

各イベントともに、

定員：50名(申込順) 参加費：1,500円(当日徴収)

持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート、ハイキングのできる服装

<申し込み>：認定 NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

1) QRコードで

2) e-mail : kanagawa_shizenkansatu@yahoo.co.jp へ

3) 〒243-0018 厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604 へ往復はがきで

森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください。

お問い合わせ：TEL 080-8712-3804 担当 西岡

